

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年6月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1570300473
法人名	社会福祉法人 上越老人福祉協会
事業所名	グループホーム「敬寿」
所在地	新潟県上越市新南町28番3号 (電話) 025-526-0773
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 4月 22日

【情報提供票より】(20年 3月 13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 9年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8人
職員数	9人	常勤	7人、非常勤 2人、常勤換算 7.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	平屋 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月あたり		20,000 円	

(4) 利用者の概要 (20年 3月現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2		4 名	
要介護3	1 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 79.5 歳	最低	61 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人高田西城会 高田西城病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、母体法人が運営する老人保健施設と同じ敷地内に併設されている。本体施設である老人保健施設との連携は密であり、緊急時の協力体制、献立への助言、職員研修等、様々な協力支援体制が整っており、利用者、家族、職員の安心感にもつながっている。認知症対応型通所介護の利用者との関係も無理なく行なわれている。
高田公園にも近く、上新バイパスが事業所の脇を走っており、外出するにも利便性がある。住みなれた地域でその人らしく暮らし続けることを大切に、ゆったりと生活するには恵まれた環境である。
居室、共用スペース、廊下等の空間は広く取られており、十分な間取りとなっている。利用者の作った装飾作品が随所に飾られており、さらに事務スペースも利用者に配慮しリビング中央の一角に違和感なく設置されており、家庭的な雰囲気が醸し出されている。
地域周辺も宅地化が進んできており、今後さらに地域に溶け込んでいく取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について職員と話し合うとともに、改善に向けて積極的に取り組んだ。「運営理念の啓発」では、パンフレットによる広報活動を中心に行なった。「玄関周りの配慮」では、新たに看板やプリンターなどを設置するなど工夫がされている。「定期的健康診断」では、法人経営の病院にて年4回血液検査が行われている。「地域との交流」では、運営推進委員や本体施設の協力もあり、地域との積極的な関係作りが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を実施するにあたっては、全職員から作成してもらい、その後話し合いをしながらホームとして作成した。評価の意義については管理者、職員間での共有が十分されており、日々のケアを振り返り業務を見直す機会にした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 利用者代表、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員をメンバーとして、2ヶ月に1回開催されている。会議ではホームの運営状況の報告や、検討事項についての協議をしており、サービスの向上に活かしている。また、会議のメンバーを通じて地域へホームの情報発信もされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 職員は、家族との交流を大切にしており、面会時等さまざまな機会を通じて利用者の様子を家族に伝えている。苦情についても全職員と協議し検討を行い、利用者・家族に対して迅速な対応をし、運営にも反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進委員、本体施設の協力を得たり、全職員で近隣住民へ広報誌を配布するなどの啓発活動の努力により、地域の方々からホームの役割について理解を得られてきている。周辺の宅地化も進んでおり、ともに暮らす地域住民の一員として、今後さらに、地域で必要とされるホームの役割や活動を担っていくことを期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、利用者が地域の一員として安心して暮らしていることを大切にしたホーム独自の理念を職員間でつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で話し合いを行ない、ホームとしての理念を考えた。理念についてはスタッフルームに掲示されており職員会議等の場で振り返り、確認するようにしている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	入居時に、利用者や家族に理念を説明し理解を得ている。また、広報誌などを利用しながら、地域に向けた情報の発信に努めている。		広報誌の発行により、地域との交流をすすめる取り組みが始められている。日頃の活動も含め、地域への理念の浸透を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム脇での畑仕事を通じて近隣住民からのアドバイスを頂くなどの交流をきっかけに、地域の方々から立ち寄っていただけるよう努力している。広報誌、パンフレット等を使い発信をしているが、なかなか日常的な交流にまで至っていない。		ホームでは、積極的に地域住民との相互交流を図っていく努力をしている。今後さらに、地域住民との交流会等をホームで開催してみたり、地域の行事に出かけていく等の取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施するにあたっては、各職員から原案を作成してもらい、その後話し合いをしながら管理者がホームとしての評価をまとめた。評価の意義については管理者、職員間での共有が十分されている。外部評価の結果についても、積極的に質の向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。構成メンバーは、利用者代表、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員となっている。ホームの運営状況の報告や、検討事項についての協議をしており、意見や助言を運営に活かしサービス向上に結び付けようとしている。		運営推進会議に関しては、行政側の理解や支援を必要とするところもあることから、市の担当者にも会議への参加を得られるよう検討を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携はなされている。また、本体施設の事務長を通じ市とは良好な関係が作られている。		運営に関する問題解決のためには行政の理解・支援が必要な場合もあることから、市の担当者にホームの実情を伝える機会を設け、さらなる関係を築いていくための取り組みを期待したい。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で行なわれる虐待に関する研修を受講している。また、マニュアルも整備されている。日々の業務中での注意喚起や申し送りなどで虐待がないよう注意を払っている。		利用者を傷つけてしまいそうな職員の言葉がけが見られることもある、と管理者は危惧している。今後も虐待の理解を深めるため、虐待に関する研修会等への参加や、そこで学んだことを生かしホーム内での勉強会等の実施を期待したい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の生活や健康状態等については、必要に応じて面会時や電話等で、家族の状況も考慮しながら報告している。職員の異動についても面会時を利用して報告がなされている。		利用者に関する報告はその時々に応じて行なっているが、今後、広報誌等の作成時期を活用するなどして、定期的に報告することを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決の仕組みもしっかりと整えてあり、玄関先の窓口に意見箱を設置するなど、意見や苦情を吸い上げる工夫がされている。また、日頃から利用者や家族の声を聞く姿勢を大切にすることを管理者・職員間で話し合っている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのコミュニケーションの大切さを認識し、日常的に職員の意見や要望・提案を積極的に聴いている。また、日頃から密にコミュニケーションを図るように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の事業所を持つ大きな法人であり、職員の異動は行なわれるが、異動は必要最小限となるよう配慮されている。異動の際には、個々の利用者に応じてきめ細かく説明するとともに、職員間での引き継ぎも十分に行い、ダメージ軽減に努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	法人全体でマニュアルが作成され、スタッフルームにも置いてあり職員が必要な時に確認することができる。マニュアルの検討、見直しについても法人全体で行なわれており、変更になった場合は随時差し替えられる仕組みとなっている。職員には周知徹底がなされている。しかし、ホーム独自のマニュアルが作成されていない。		今後、ホーム独自の実情に見合ったマニュアルの作成を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修計画が立案されており、法人で行なわれる研修、講習会、事例検討会等に管理者、職員ともに参加している。また、外部の研修にも積極的に出席している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホーム間での意見交換の場を設け、事例検討会議等話し合いを行っており、今年は、交換研修を行う予定にもなっている。また、他法人の施設には、見学を主体とした訪問も行っている。		法人内はもちろんのこと、今後は地域の同業者とのサービスの質の向上を目的にした交流を期待したい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が管理者に気軽に相談しやすい環境づくりに努めており、各職員とのコミュニケーションが十分とられている。また、職員の意見、要望を仕事を通じて吸い上げるように心がけている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、本人・家族と一緒にホームの見学に来ていただき、サービス内容も含めて説明している。また、入居時やその後も、ご自宅で利用されていた馴染みの物品を持ち込んでもらうなどして、ホームに馴染んでもらい安心して暮らせるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、人生の先輩として利用者に相談に乗っていただくなどの場面もあり、共に支えあう関係作りに努めている。また、料理方法を教わったり、一緒に歌を歌ったりしながら喜怒哀楽を共にするように努めている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時などを利用して利用者の状況を説明したり、お話をさせていただく等、家族と共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の表情や様子に気を配り、希望、意向の把握に努め、それに沿った支援をしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や趣味、得意なこと等について、アセスメントや日々の生活の中から把握に努めている。		昨年からセンター方式アセスメントの導入も検討もしている。センター方式のアセスメントを活用して、利用者の生活歴やその人らしさ、希望や意向をよりいっそう把握できるよう、取り組みを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人の思い・希望等を把握すると共に、家族からも情報を得て、介護計画に取り入れるようにしている。アセスメントは全職員から情報収集して課題分析を行うなど、協働で介護計画を作成するようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な評価・見直しを実施するほか、状況の変化に応じてその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の思いや希望等を大切に、その人らしい生活が出来るよう一人ひとりのニーズや状況に応じて、畑仕事や縫い物等の趣味活動に柔軟に対応している。家族の状況に応じて、病院受診の付き添いにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医から継続して医療を受けている。利用者・家族の希望に応じて、ホーム職員が受診への同行に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の病状回復が見込めない場合など、ホームでは終末期の対応はできない旨を入居時に説明し了解を得ている。そうなった場合は、家族等とよく話し合い、必要に応じて他の施設への移行も支援している。		

外部	自己	項 目	(実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応は、優しく穏やかである。利用者の了解を得てから居室に入る等、誇りやプライバシーにも配慮している。また、個人記録のファイルはスタッフルームに保管されており、利用者の目に触れないよう配慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課のたまかな流れはあるが、入浴や食事等、利用者のペースを大切にして、利用者の希望に沿った支援を行なっている。		金銭管理については、本体施設で一元管理されており、法人の運営方針により事業所では行なわれていない。金銭管理についても利用者の能力、希望に沿った支援を検討することが望まれる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事摂取量の把握は個別にきめ細かく行なわれており、利用者の希望、嗜好を活かして献立作成がされている。ご近所から食材の差し入れがあった場合などは、献立を変更するなど柔軟な対応がなされている。食材の買い物も利用者や近くのスーパーと一緒にいたり、後片付けも出来る方に手伝っていただいている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	ほとんどの利用者は、排泄について自立されている。各居室に洗面台とトイレが設置されており、必要に応じて排泄誘導等がさり気なく行なわれ、プライバシーに配慮した対応がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日ほぼ全員の利用者から入浴をしていただいている。入浴の可否、時間帯の希望も毎日確認し、希望にそった対応がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や、配膳、後片付け、掃除、ゴミ出し等をお願いするなど、一人ひとりに応じた役割が用意されている。また、ホーム脇の畑作りや刺し子・防空頭巾等の縫い物等、これまでの趣味や特技を活かせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近くのスーパーに利用者と一緒に買い物に出かけたり、お墓参りやドライブの支援を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルの整備はされている。法人主催の身体拘束に関する研修や他の研修など、機会があるごとに受講をしている。職員は身体拘束をしないことを当たり前と認識しており、それに合わせたケアを実践している。		全職員は拘束しないという認識と、ケアを行なっているが、具体的な事例をもとにホーム独自に研修の機会を作って理解を深める取り組みを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開錠されており、利用者は自由に外に出られるようになっている。玄関の戸にはセンサーがあり、戸が開くとさり気なくチャイムが鳴り、人の出入りがわかるようになっている。外出を希望する利用者に対しては個別に支援している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハット報告書、再発防止の一連の報告書が整備されている。事故報告書をもとに、利用者一人ひとりに応じた再発防止策を職員会議等で話し合い、全職員に周知徹底している。		目隠し用カーテンが掛けられてはいるが、浴室の洗面台脇の手の届く位置に洗剤等が置かれていた。不測の事態を防ぐ意味からも、洗剤、薬品などの置き場所の工夫を望みたい。また、様々なケースの事故防止策の勉強会や検討会議の開催など、さらなる充実を期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	利用者の急変時、事故発生時の対応方法についてはマニュアルが整備されており、併設施設からの支援など連携体制がとられている。		消防署等の協力を得て、いざという時の不安材料を具体的に全職員で話し合い、訓練を繰り返し重ねて、全職員が緊急時に対応できる体制の整備に期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	消防署の協力を得ながら定期的な避難訓練を行なっている。地域住民、運営推進委員の方々との連携も重要であると考え、ホームの避難訓練に参加していただけるよう都度呼びかけしている。		職員だけで利用者を避難させることの限界を具体的に確認し、日頃から地域住民の方々や関係機関との連携を密にして、ホーム災害時対策に関する理解を深め、協力体制の整備や取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分・食事の摂取量を常に意識しながら、本体施設の管理栄養士の助言のもと、献立を作成している。ホームの脇にある畑で採れた旬な野菜を食材にしたり、利用者の嗜好も考慮しながら、食欲のわく食事支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、共用スペースを含め、ホーム全体の衛生保持に努めている。不快な臭いや音もなく、居心地のよい空間作りがなされている。また、利用者が作った縫い物、折り紙等が随所に飾られ、家庭的な雰囲気が醸し出されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用していた馴染みの物品を持ち込んでもらったり、手作り作品を飾る等、その人らしい居室作りに努めている。		居室内の障子、カーテンが多少変色しており、部屋全体が暗く感じられる。居室内の障子やカーテンが開設当初からのもので、今後取り替えを予定しているとのことなので、利用者、家族と相談しながら、居室づくりの一環として工夫することを期待したい。